スペイン日本語教師会ニュースレター

スペイン日本語教師会
ニュースレター第8号
2013年11月発行
©スペイン日本語教師会
編集　藤野華子・加藤さやか

CONTENTS

1
第17回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム
皆さまへの感謝をこめて
鈴木裕子
2-3
実行委員会 裏方さんの裏話
シンポキットの準備
大和田道子
お弁当
貴志栄子
ありがとう！まごころチーム
高森絵美
3-4
学生ボランティアより
日本人と働いた、すばらしい経験
イレネ・オルドニエス
ガイドになって、楽しかったです!
ボルハ・クエバス
4
APJE参加者より
シンポジウムに参加して
久保賢子
家族で参加したシンポジウム
板倉法香
4-6
JFMD日本語上級専門家交代
帰任のご挨拶
熊野七絵
着任のご挨拶
隈井正三
6
2013年度APJE活動予定

2013.09.05-07

第17回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム

2013年９月５日から７日の３日間にわたって、マドリードで第17回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム（日本スペイン交流400周年事業認定）が開催された。テーマは「今、見直そう。日本語教育における評価」。23カ国から222名の日本語教育関係者が参加した。初日の基調講演ではカリフォルニア大学サンディエゴ校の當作靖彦教授が「壁ではなく、橋を作る–『つながる』評価」という題名で、従来の評価からのパラダイムシフト、そしてグローバル化を考慮した新しい評価の形について話され、３日目の全体ワークショップでその実践的な使用を紹介された。また、２日目の基調講演ではマドリード・コンプルテンセ大学現代言語センター総合コーディネーターのMichelle Crick氏がスペイン各地の大学語学センターが行っているレベル認定の画一を目指す、ACLES (Spanish Association of University Language Centres)の組織と使命について話された。その他、全体では国際交流基金パリ、ケルン、ローマ、マドリードによる「全体パネル」、CEFRプロジェクトとJ-GAP Japanese Global Articulation Projectの２本から成る「AJEプロジェクトの中間発表」、そして日本語の所有権、日本語学習者の読解過程、JLPTとJFS、継承日本語をテーマとした４本の「AJEフォーラム」が行われた。個別の研究発表、実践報告では34本の口頭発表、15本のポスター発表、２本のパネル発表、２本のワークショップ発表が行われ、３日間にわたって様々な角度から日本語教育の評価について検討する機会となった。

また、２日目の日程終了後には佐藤悟在スペイン日本国特命全権大使のご好意により、大使公邸で懇親会が行われた。その様子と写真は現在、在スペイン日本大使館のホームページで公開されている。

終了後のアンケートでは、全体プログラム、発表、運営において、「とてもよかった」または「よかった」の回答が大多数を占めた。また「テーマに忠実だった」「中身が充実していた」「実行委員、学生がチームとなって、大変気持ちよく参加した」といったコメントが多く、シンポジウムは盛況のうちに幕を閉じた。

皆さまへの感謝をこめて

シンポジウム実行委員長

鈴木裕子

マドリードに冷たい雨が降って、1ヶ月前の暑いシンポジウムが嘘のようです。参加された先生方に多くの感動を与えたヨーロッパ日本語教育シンポジウムマドリード大会は、スペイン日本語教師会のチームワークの賜物だと思っています。実行委員、参加してくださった会員の皆さま、そして、今回は参加できなかった会員の方々も様々な形でシンポジウム

に関わってくださいました。皆が一つになるとこんなに素晴らしいことができるのだとスペインから多くのことを発信できたのではないでしょうか。この場を借りて、APJEの皆さまに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

実行委員会
裏方さんの裏話

シンポキットの準備

大和田道子

昨年の１２月の役員会で、シンポジウムのためのシンポキット係りとなりました。仕事でマーケティングの仕事をしていたとはいえ、自分で業者を探すことから始めたことはなかったので、まずそこから戸惑いました。１月にミキトラベルとの打ち合わせがあった時にたまたま相談したところ、マーチャンダイジングを作っている会社を紹介して頂きました。そしてそこから業者との交渉が始まりました。とりあえず、すぐに予算を出さなければならなかったので、業者の人に色々なサンプルを持ってきてもらい、それから予算のめどをつけました。

役員会では、エコバッグ、ファイル、扇子、学生用のTシャツを作ると言うことでしたが、まずどこにどんなロゴを入れるか、又、色は何色にするかなどは、役員会を重ねるたびに具体化していきました。色はスペインの国旗をイメージするために赤と黄色を中心にしましたが、結局在庫がなかったりで、まったくその通りにはなりませんでした。それから大使館のロゴも役員会のメンバーで投票して決めました。

本格的に仕事が始まったのは、やはりポスターが出来上がって、参加申し込みが終わり、参加者の人数が確認されてからでした。その頃はもう夏休み近くになっていたので、業者の人から早く印刷するデザインを送ってくれとせかされました。印刷を始めてからは途中でデザインを変える事が出来ないので、ミスがないように業者の人に何度も、土曜日の夜に私の家へ来てもらって打ち合わせをしました。業者の人は日本語が読めないので、デザインの説明のほかに、何と書いてあるかと言う説明する必要もありました。

７月２６日にすべてのシンポキットが出来上がり、国際交流基金の事務所へ届けてもらいました。その時にすべてのデザインが注文どおりにきれいに印刷されていたので、本当に嬉しかったです。早速、２９日に実行委員会を開いて、みんなでシンポキットの袋詰めをしました。

これで安心して８月はみんなで休みを取りましたが、８月後半になってまだ予算があると言うことだったので、スペイン日本語教師会（APJE）のボールペンを作ることになりました。８月は業者が夏休みだったので、９月になって急いでボールペンの注文をし、シンポジウムの２日前に出来上がりました。最後の最後まで慌てましたが、実行委員の皆さんと協力し合って、ラストスパートで再度、袋詰めをしました。

シンポ期間中は、みんなが揃って「第１７回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム」と書いたエコバッグを持って歩いていたり、学生が「まごころ」と書いたTシャツを着て協力して下さる姿を見るのは感慨深いものがありました。それから大使公邸へ伺った時、大使がすぐにTシャツを着用して下さったのも感動的でした。

最後になりましたがこのようなシンポキットが出来たのも、すばらしいポスターのデザインをして下さったメルシアさん、「まごころ」の美しい字を書いて下さった貴志さんのお陰です。本当にご協力ありがとうございました。

お弁当

貴志栄子

お弁当の担当ということで鈴木会長から早くに連絡を受けてはいたのですが、実際に動く必要もなく、すべて電話で済ませることで、事がなりたちました。

先ず9月5日、初日のおにぎりについてですが、これは早くから準備にかかっている実行委員とまごころチームへの本部からの心遣いということで、3.5ユーロまでで「虫おさえ」になるものを探しました。若い人たちはこんな言葉はあまり使わないでしょうが、いわゆる「腹の虫」おさえということでおなかが空き過ぎないようにという本部の配慮で提供することになったものです。これは54名分でしたので、私の知り合いの仕出し屋さんに頼みました。

当日時間通りに、おにぎり2個と鳥の唐揚げと小さな出し巻卵をつけて届けてくれました。虫押さえとわかってはいるものの、やはりもうおなかが空く時間でしたので、もう少し量があればよかったのにと…。ただあとのほうで余っている分をまごころチームの人たちに食べてもらったよ

うです。若い人たちには物足りなかったでしょうから。

最終日9月7日のお弁当に関しては、鈴木会長の推薦で、KABUKI のグループであるKOTOBUKI に注文をいれることになり、シンポジューム参加申込者の内、お弁当を申し込んだ方々と実行委員（学生のまごころチームを含めて）をまとめて200～250名とふんで連絡をいれました。金額は10ユーロということで、IVA込み、水1本付きという条件でお願いしたところ、うーんという声があがりましたが、OK の返事をもらい、詳細は又後ほどということで一安心。これもKABUKI のオーナーが鈴木会長の元生徒さんということ、私も良く知っているということからのコネを効かせたからでしょう。

その後は一応メールにて詳細を知らせ、KOTOBUKI の担当者との話し合いも8月末におこない（200名分、内容はにぎり寿司と細巻き、海草サラダ、とんかつ等）、9月に入ってから最終の確認をしました。見本を作ってもらって、シンポジュームの初日の5日に会場へ持ってきてもらい、何人かの人と試食をしました。ここまでは良かったのですが、皆さんもご存知のように、当日の約束した時間になっても届かないので、担当者に電話を入れ催促してやっと届いたと喜んだものの、数が半分近くも足らなかったのです。折り返し残りを持ってくるからという言葉を信じて待つこと・・・。その間何度も担当者へ催促をして、そのつどあと何分だからと言われて、まごころチームとひたすら待ちました。まごころチームは「あと2分というのはスペインでは10分から15分」と確信しており、確かにそれ以上の時間待たされました。今まで順調に運んできていたのにと、腹立たしいやら情けないやら。自分で解決できない、相手のあることなので余計にイライラしたというのが本音です。

最終的にプログラムの時間をずらしていただくことによって、何とかお弁当を食べていただくことができましたが、何人かの方はあとの都合があるからとお弁当なしという結果になってしまいました。お詫び申し上げます。その方たちには本当に申し訳なかったのですが、当日余分なお弁当があれば食したいという方たちに回すことができました。ただこのお弁当自体も、見本と違って全体の量が少ない上にトンカツなどはかたいという評価でしたからこれも反省の材料となってしまいました。

あとからKOTOBUKI の担当者にいろいろ原因を聞かされましたが、それを聞いても仕方ないと思い、私としては珍しく文句だけは言っておきました。鈴木会長からは、「金額も安かったし、人数も多かったからでしょう。それと時間を遅らせることでよかったから」と慰めてはいただきましたが、本当に残念でした。

この簡単なお弁当の手配にしても、こういう思わぬことがあるのですから、こうした大きなシンポジュームともなると、その大変さは相当なものだと感じられます。

改めて、ボランティアの皆さんを含め、実行委員の皆さん方のまじめな取り組み方、それをまとめられた鈴木会長はじめ役員の皆さん方に大きな拍手を送りたいと思います。

ありがとう！ まごころグループ

高森絵美

学生ボランティア（まごころチーム）の頑張りぶりは、シンポジウムに参加された先生方から絶賛されるぐらい素晴らしいものでした。まごころチームは、5月中に初級終了を条件に応募をかけて集まった計22名（CSIM，UAM，JF）の学生さんで、シンポジウム当日はみんなで同じ「まごころTシャツ」を着用し、各持ち場で気を利かせてくれていました。彼らとの初顔合わせは7月下旬のミーティング。ペアごとに割り振った仕事内容（会場案内、受付、各教室担当、写真係など）を説明し、夏休みにはシンポジウム語彙リストを覚えてもらうようお願いしました。シンポジウムの週は5日連続で朝から準備や運営を手伝い、突然の買い出しや重い荷物の運搬も快く引き受けてくれました。また、総勢200人以上の日本語教師の襲来に怖気づくこともなく、積極的に日本語を使って会場案内をしたり、機材の使い方を説明したりするほか、列でお弁当を待つ先生方を退屈させないように自ら進んで面白い話を披露した学生さんがいたとも聞いています。まごころチームの学生さんは、決して日本語レベルが高い学生さんばかりではありませんでしたが、みんな一生懸命コミュニケーションを図り、何かの役に立とうと頑張っているように見えました。この機会が学生さんにとってもいい経験として残るものであると嬉しいです。ありがとう！

まごころチーム 学生ボランティアより

日本人と働いた、すばらしい経験

イレネ・オルドニエス

６月に日本語の先生のシンポシウムで働くために、しょうたいをもらいました。日本人と働きに行きましたからとてもうれしかったです。私とアリシアさんは写真を撮ることを選びました。楽しい仕事だと思いますね。

先に、とても不安でした。たぶん日本人と日本語で話さなければなりませんでした。にほんへ着くのに私は内気ですからほかの人と少し話します。でも、後で、シンポシウムで、にほんじんとよく話しました。いつも私たちの日本語の勉強に強い関心を示しました。みんなとても親切な人だと思います。また、日本語を勉強するほかのスペイン人の学生に会うことができました。

仕事もとてもすきでした。写真をとることは面白いと思います。講演

会が始まったときアリシアさんとクラスに入って、発表者と出席した人の写真をたくさん撮りました。でも、時々明かりが少ししかありませんでしたから、撮れませんでした。最後に写真が２５０ぐらいありました。家へ帰ったとき、写真の中で一番を選びました。

また大使館のパーティーはすばらしかったね。スペインで日本の大使に会えたことは光栄でした。

シンポジウムの４日間は大変でしたが楽しくて面白かったです。この仕事は私にとってとてもいいチャンスでした。未来にもう一度したいです。

ガイドになって、楽しかったです！

ボルハ・クエヴァス

はじめまして。私の名前はボルハで、日本語の３年生の学生だ。そして、「まごころ」の一人だった。私はシンポジウムでガイドになった。あんないするのはとても楽しくて良かった。たくさんの人がぜんぜんスペイン語を話せなかったから、いつも日本語を使った。私達は人々に「手伝いましょうか」と言った。それから、人々は大きな笑顔で答えた。時々日本語があまり分からなかったから、人々に「ゆっくり話してください。もう一度おねがいします」と言った。そして、たくさんの親切な人を知っていった。シンポジウムが大好きだった。さあ、みんなで日本語を練習しよう！

APJE 参加者より

シンポジウムに参加して

久保賢子
サラマンカ

CEFRの概念が導入されて以来、教授法の大きな変化期の真っただ中で、AJEシンポジウムに参加できたことには大きな意義があった。人前で話したり人と交流したりすることが苦手な私だが、こういう場で考えを共有することの大切さもしみじみ感じた。年一度開かれていた日本語教師連絡会に初めて参加したのがちょうど10年前。あのような地道な活動が土台になり、今回広くヨーロッパへ繋がっていったことを目の当たりにし、まさに日西交流400周年にして橋が架かったといえようか。今後ますますの情報交換、教授法改善が行われ、スペインにおける日本語教育の発展に伴い、スペイン人日本語学習者の多文化社会における活躍が期待される中、日本語教育に携わる一員として、その立場や責任を再認識し、大いなる励ましを頂いたような気持ちで新たな年度を始めることができそうだ。

家族で参加したシンポジウム

板倉法香
アリカンテ

ヨーロッパシンポジウムがマドリードで開催されると聞いてから、必ず出席すると決意してきた。問題は下の子。１歳になってばかり。置いては行けない…なので、夫にもシンポジウムの日程に合わせて夏休みをとってもらい、日本への帰省もそれにあわせた。前日に日本からマドリードイン。家族はマドリード観光。私はシンポジウム参加。時差ボケも全然気にならないほど、発見、確認いっぱいの充実した内容だった。素敵なシンポジウムにしていただいた運営の皆さんに感謝。そして、それに参加させてくれた家族に感謝。

JFMD 日本語上級専門家交代

９月半ば、APJEの立ち上げからスペイン全国の日本語教育をサポートしてくださった熊野七絵日本語上級専門家が３年間の任期を終えて日本に帰国された。後任は隈井正三上級専門家。去る10月18日に早速隈井先生をお迎えして、第15回APJE研修会「みんなのCan-do サイトを使ってみよう！」が行われた。

帰任のご挨拶

熊野七絵
JF日本語上級専門家
Nanae_Kumano@jpf.go.jp

国際交流基金マドリード日本文化センター初代日本語上級専門家としての2010年9月22日から2013年9月21日までの3年間の任期を終え、大阪にある国際交流基金関西国際センターに戻って、1ヶ月が経ったところです。

振り返ってみると、3年間というのは、長かったような、あっという間だったような期間でした。派遣前にも2010年2月のAPJE第1回総会兼研修会、6月のAPJE第1回シンポジウムにも出張で出講させていただいたため、事前に皆様と知り合い、教師会、スペイン、欧州の日本語教育の現状を早くから知ることができたことは幸いでした。

JFMDの上級専門家として、この立ち上げの3年間は、常に「APJEと二人三脚で」ということを心がけ、スペインの日本語教育支援に携わってきました。JFMDでは、さくらネットワーク事業として、①アドバイザー業務、②日本語教育巡回セミナー、③スペイン日本語教師会支援、④欧州日本語教師会支援（AJEシンポジウム）、⑤日本語教育ネットワーク会

議、⑥日本語学習者奨励活動、⑦日本語小規模助成などの事業を行い、日本語講座事業として①JFS講座の実施、②日本語教材制作、③講座試験制作などを実施しました。

アドバイザー業務では、日本語教育相談やリソースセンターの運営、JF事業の広報、関連機関との情報交換や現状調査等を行ってきました。日本語教育相談は年間60件程度の相談が寄せられていましたが、教材選定、Can-do目標やカリキュラム作成、試験作成などさまざまな問い合わせがあり、私自身もCEFRや各種マニュアル、スペインの各教育機関のカリキュラムなどについて勉強しながら、相談に応じてきました。現場で既に同じ課題に取り組んでいる先生方のお知恵を借りて、いっしょに相談し、情報交換しあうという形をとることができたのも、APJEのネットワークがあったからこそだと思っています。教材選定などの相談では、個人で教えている先生方から年少者教育、JLPT対策、中級教材等の問い合わせも多かったため、図書選定の際にもスペインの各教育現場で必要とされているものを取り入れるようにしました。

日本語教育巡回セミナーは、教材や情報が不足しがちな地方在住教師への支援のため、わかりやすく、かつそれぞれの現場に役立つものにすることを心がけ、バルセロナ、バレンシア、アリカンテ、ムルシア、セビージャ、マラガ、サンティアゴ・デ・コンポステーラ、そして周辺国ではポルトガル、スイス、ベルギーなどで年7-8回開催しました。地方の様子をAPJEの活動にも生かしていただきたく、2年目、3年目には鈴木会長にも何度か同行していただきました。JLPT、JFS／CEFR、『まるごと』などを紹介する機会ともなりました。その後、それぞれの地方でネットワークができ、日本語教師を中心に震災チャリティー日本語講座が企画されたり、APJEの研修会で地方の先生方の実践発表が行われたり、各種プロジェクトに地方参加者が増えるなど、地方からの活発な活動と発信が増えていく様子をとてもうれしく感じました。また、最近は巡回セミナーでも「参加者に合わせてこのレベル設定、テーマでやりたい」、「2日間CEFRやJFSについて理論から実践までじっくり学びたい」など現場ニーズに合わせた具体的な提案がなされるようになってきています。

スペイン日本語教師会支援では、APJEの研修会の企画や実施、教材、辞書、ポスター制作などの各種プロジェクト、勉強会などをAPJEとともに支援、実施してきました。研修会やシンポジウムを重ねるごとに、内容も充実し、運営もよりスムーズになり、新しい会員も増え、ますますネットワークが広がってきました。APJEは、今欧州内でも最も勢いのある教師会として注目されています。最近では、CEFR／JFSやe-ラーニングなど最新の日本語教育の動向を反映したテーマを扱うとともに、会員自身が発表者、講師となった実践報告やワークショップ、継承語教育や個人レッスンの座談会、日本語教師のための日本文化マナーなど、APJEならではの主体的な企画も増えています。

そして、APJEがこの3年間で培ってきた力を発揮する舞台となったのが、2013年9月5-7日にマドリード・コンプルテンセ大学で実施された第17回ヨーロッパ日本語教育シンポジウムでした。実行委員それぞれが自分の持ち場で力を発揮し、まさにみんなの力で作り上げた会でした。参加者からは「こんなにすばらしく気持ちのいいシンポジウムは初めてで、感激した」「プログラムも「評価」というテーマに合った興味深いものばかりで、発表もすばらしかった」といった声が挙がっていましたし、APJEの会員も多数参加し、欧州や他の地域の日本語教育関係者と交流することができたのではないでしょうか。シンポジウムは無事大成功に終わり、3年間の集大成としてAPJEが底力を発揮する様子を見届けることができ、本当に感慨深かったです。

APJEのよさは、和気藹々とし、いつも笑いが絶えない明るい教師会であり、研修会にも誰でも気軽に参加できる雰囲気と、研修会で学んだら新しいことでもすぐに現場でアレンジして取り入れる柔軟性、プロジェクトを始めようとなったら、それぞれが協力して本当に実現する実行力だと思います。

スペインでの3年間、APJEとともに歩み、スペインの日本語教育の支援に邁進した日々は、休みなく忙しい日々ではありましたが、やりがいがあり、うれしいことの連続でした。今でもAPJEの会員一人一人の顔や声を思い出すと、懐かしくなるとともに元気が出てきます。今後もAPJE会員の一人としてAPJEを応援し続けたいと思っていますので、日本から何かお手伝いできることがあれば、いつでも声をかけてください。そして、今後のAPJEのますますの活躍も期待しています！

着任のご挨拶

隈井正三
JF日本語上級専門家
shozo.kumai@fundacionjapon.es

9月12日に国際交流基金マドリード日本文化センターに着任しました、　隈井正三と申します。前任の熊野さんが先生方とともに教師会を盛り上げ、充実させながら軌道にのせてきたところに、私も遅れずについていきたいと思います。

私はこれまで、東京、クアラルンプール、ソウルと国外も含め、ずっとアジアで日本語教育に携わってきまして、欧州は今回が初めてになります。着任前でしたが、9月のAJEシンポジウムに参加したのがスペインの日本語教育の現場に触れた最初の機会でした。「これはスゴイことになっている」が第一印象。着任後もその「スゴイ」という印象は強まるばかりで、教師会のいろんな面でのレベルの高さに、圧倒されている感じです。数々の「スゴイ」の中で最も感激したの

は、先生方の明るさと楽しそうな様子です。日々忙しく、現場には難題もあるはずと思うのですが、何でしょうか、この前向きな空気。これから先生方と一緒に仕事をしていくことが楽しみです。少しでもお役に立つようなことができれば、と思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

2013-2014年度
APJE活動予定

APJE勉強会

「JF日本語教育スタンダード試行版」を読む
毎週火曜11：00-12：00
JFMDにて
Skype による地方の先生方の参加も大歓迎。参加希望は apje.info@gmail.com まで。

APJE第五回総会・研修会

2014年2月第二週
JFMDにて

基調講演およびワークショップ「コミュニケーションのための日本語教育」
招聘講師　野田尚史（国立国語研究所）
アルザス研修還元報告
イグナシオ・ロペス・サコ（グラナダ大学）、隈井正三（JFMD上級日本語専門家）

継続中APJEプロジェクト

『まるごと』文法解説書
「初級２（A2-2）」
完成版がまもなく発行予定。
『同』「初中級（A2-B1)」も試行版が年度内に完成予定。